

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年3月8日

事業所名 アフタースクールスマイルステーション谷町

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・パーテーションを利用して、個人のスペースを確保している。	保護者の送迎や子どもの入れ替えの時間でスペースの確保が難しい時があるので、順序よくできるように改善していく。
	2	職員の配置数は適切である	○		・適切である。専門職など増員している。	余裕ある体制にするため、今後もアルバイトなど職員を増員していく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・生活空間は本人に分かりやすく構造化されている。バリアフリーを要する利用者はいないが、必要に応じて手助けをしている。	本人のすることが一目で分かるように掲示物を貼ったり、パーテーションで区切ったりして、分かりやすく構造化している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・内容によって椅子に座ったり、身体を動かす際はマットの上で活動したりして、活動に合わせて場を工夫している。また、清潔に保つために掃除を定期的に行っている。	子どもたちの活動に合わせた空間になるよう、これからも場の工夫をしていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・職員会議等で支援や業務について話しているほか、課題が見つかり次第実行している。	これからも、常に業務改善を進めていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・保護者からの意見を参考にしながら取り組んでいる。 ・アンケートをもとに改善するため職員間で話し合っている。	常に保護者の意向等を大切にサービスにあたりたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・ホームページやすまいる通信に載せている。	ホームページや会報で公開する予定である。玄関にも掲示したい。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	・相談支援員や学校関係者に来所していただき話し合っている。 ・第三者による外部評価は行っていない。	第三者による外部評価は行っていないが、相談支援専門員や学校関係者などには適宜見学に来ていただいている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・発達に関することから防災など多岐にわたって行っている。	研修の機会を確保し、発達理解や対応法、心理学等について学んでいる。今後も研修の機会を確保していく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・職員全員が担当者会議に出席している。 ・モニタリングを行い、保護者の意見や子どもの様子を見ながら計画の作成をしている。	放課後等デイサービス計画の作成の折には、子どもと保護者のことを十分に話し合い、療育に活かせるようにしていく。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・標準化されたアセスメントツールはないが、アセスメントの取り方は打ち合わせている。	今後、標準化されたアセスメントツールを導入したい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・個々に応じて発達支援の「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」を組み合わせて支援している。また、家族支援として連携を取りながら、保護者の思いに寄り添っている。	特性によって異なるが、子どもや保護者が満足する支援になるよう支援内容を工夫していきたい。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・支援の際に常に目に見えるところに児童発達支援計画を置き、外れないように工夫している。	児童発達支援計画に沿った支援が行われるよう、支援内容を常に共有していく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・全員で話し合い、立案している。 ・職員間で定期的にプログラムの見直しをしている。	・今後も活動プログラムが子どもにとって適しているかどうかを常に考えたり工夫したりしながら立案していく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・適宜支援計画と照らし合わせながら、プログラムを工夫している。	今後も常にプログラムを工夫してより良いものにしていきたい。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		・個別をメインで取り組んだ後は集団遊びなどの活動を取り入れている。 ・少人数グループでの活動も行っている。	グループと個別があり、ニーズに応じて組み合わせる支援を今後もしていく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・必ず支援の中で気になった点や改善すべき点を共有している。	毎朝、朝礼を行い、支援内容や役割分担について確認すると共に、支援の中で気になった点や改善すべき点などの記録・伝言を大事にしていく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・ビジネスツールの活用や口頭で気になったことを報告し合い共有している。	気になった点や良かった点など共有し合い、ビジネスツールにも書き込んで周知を徹底する。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・支援報告や実績記録を必ず書いている。	支援報告書のほかに、ビジネスツールにも記録を残している。また、実績についても、ソフトに記録保存している。支援の検証・改善につなげていきたい。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・半年に1回モニタリングを行い、支援の内容や方向性を話し合っている。	保護者の方には必ず面談に来て頂き、話し合いのうえ、放課後等デイサービス計画の見直しを今後もしていく。
関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・児童発達支援管理責任者を中心にそれぞれの保護者や子どものニーズに対応できるよう参画している。	児童発達支援管理責任者を中心に、子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画できるようにしている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・必要に応じて、連携している。	必要に応じて、これからも積極的に連携していきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	/		・医療的ケアが必要な子どもは、現在はいないが、もし入所したら連携した支援を行っていく。	・医療的ケアが必要な子どもは、現在はいないが、もし入所したら関係機関と連携した支援を行っていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	/		・医療的ケアが必要な子どもは、現在はいないが、もし入所したら連絡体制を整えていく。	医療的ケアが必要な子どもは、現在はいないが、もし入所したら連絡体制を整えていくべきだと思う。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	・移行支援を必要とする利用者には、情報共有と相互理解を図っている。	移行支援を必要とする利用者には、情報共有と相互理解を図っていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・移行支援を必要とする子どもには、情報共有と相互理解を図っている。	移行支援を必要とする子どもには、情報共有と相互理解を図っていききたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・専門機関の研修を年数回受けている。	今後もサービス向上のため、研修の受講を進めていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	・希望する保護者がいないため行っていない。	障がいのない子供との活動は特に行っていない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・中央区のほか、天王寺区や生野区への協議会へも参加し、情報の共有や交流を図っている。	中央区の協議会が開催されたので、参加した。これからも情報交流のために積極的に参加していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・日頃は送迎時や支援報告書、LINEや電話等で連絡し、保護者と状況や課題について話し合っている。	支援が一方向的にならないよう、常に確認や連絡を取り合うようにしていく。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	○		・必要に応じてペアレントトレーニングを行ったり、相談に応じたりしている。	今後もペアレントトレーニングを進めていきたい。	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時には丁寧に説明している。	運営規定については、玄関に置いて、いつでも閲覧できるようにしている。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・児童発達支援計画については、保護者に支援内容の説明を必ず行い、同意を得たうえで、支援にあたっている。	児童発達支援計画については、保護者に支援内容の説明を必ず行い、同意を得たうえで、支援にあたっていく。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・保護者から希望があれば適切に応じ支援を行っている。	いつも気軽に相談に応じられるよう、毎月の会報で呼びかけていくと共に、連絡帳やLINEでも声掛けていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・入学準備相談会など保護者向けに実施している。	保護者会は今後も定期的に開催していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・相談や申し入れに対し、迅速かつ適切に対応している。	申し入れを真摯に受け止め、体制や支援の改善点として捉え、今後活かしていく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・毎月、すまいる通信を発行し、SNSを活用して相談会のお知らせ等を行っている。	SNSの活用をさらに広げていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。	個人情報の取り扱いについては、今後も細心の注意を払っていく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・子どもだけから話を聞くのではなく、保護者からの意向も聞いている。	これからも意思疎通のために配慮をしていきたい。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	・望んでいない保護者が多いため実施していない。	望んでいない保護者が多いため、他の事業所や地域住民の方と交流する活動は行っていない。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・職員会議等で見直すとともにマニュアルを保護者が見やすい場所に設置している。	契約時に説明しているが、十分に伝わっていない可能性もあるので、これからも広報していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・避難経路を確認したり、動画を見て定期的に避難訓練を行っている。	ハザードマップを掲示したり、避難誘導の方法を教えたりしているが、徹底していきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・何か病気や服薬等で知っておくべきことはないか、契約時に確認している。	・何か病気や服薬等で知っておくべきことはないか、契約時に確認すると同時に紙面でも残せるようにしていく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	・食べ物は提供していないが、重いアレルギーがある際は、保護者の申し送りに基づいて対応している。	食べ物は提供していないが、アレルギーについては保護者からの情報を得て対応していきたい。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・適宜、事例集を作成し、共有している。	ヒヤリハットの事例が出ないように、日ごろから気をつけていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・毎年、年2回以上、職員の研修を行い防止に努めている。	今後も虐待防止委員会の体制を整え、研修を行い、防止に努めていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・身体的拘束を行うことはないが、もしやむを得ず行う場合の条件は組織的に決定している。	そのような事例は今のところないが、該当する子供がでた場合、保護者との話し合い、了解のもとに支援計画に記載する。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。